

令和5年度
劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人岡山文化芸術創造	
施 設 名	岡山シンフォニーホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	20,141	(千円)
公 演 事 業	12,537	(千円)
人 材 養 成 事 業	3,664	(千円)
普 及 啓 発 事 業	3,940	(千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	岡山フィルハーモニック管弦楽団 定期・特別演奏会	令和5年5月20日ほか	出演:秋山和慶、デリック・イノウエ、シェンベルガー、松本和将、佐藤晴真、戸澤采紀、アナ・シュース	目標値	6,900
		岡山シンフォニーホール		実績値	5,900
2	ホールフェスティバル「シンフォニーは友達! 2023」	令和5年8月11日	出演:松元宏康ほか 内容:佐野秀典編/あっぱれ祭りモデル、デユカス/魔法使いの弟子	目標値	1,000
		岡山シンフォニーホール 全館		実績値	1,239
3	ベートーヴェン“第九”演奏会2023	令和5年12月10日	出演:飯森範親、森野美咲、金子美香、中島康博、大西凌、岡山“第九”を歌う市民の会ほか	目標値	1,400
		岡山シンフォニーホール		実績値	1,200
4	岡山フィルハーモニック管弦楽団 津山定期演奏会	令和5年5月21日	出演:秋山和慶 内容:ベートーヴェン/交響曲第6番「田園」、第5番「運命」	目標値	600
		津山文化センター		実績値	450
5	プレミアムコンサート	令和5年12月15日ほか	出演:小林愛実、シェンベルガー、アナ・シュース	目標値	1,600
		岡山シンフォニーホールほか		実績値	1,580

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ミュージカルワークショップ	令和5年4月～令和6年3月	内容: しっかり学ぶコース、楽しむコース、企画・制作補助コース 公演: 「マイ・シンドレラ」 脚本/角ひろみ、作曲/深沢桂子、演出/鈴木里沙(劇団扉座)、振付/横山佳奈子・川口竜也、歌唱指導/古川恭子、特別講師/小川美也子、編曲・エレクトーン演奏/尾崎麻理子、片山蘭子、コディネーター/四宮貴久	目標値	865(楽しむコース20・しっかり学ぶコース45・公演入場者数800)
		岡山シンフォニーホールほか		実績値	689(楽しむコース20・しっかり学ぶコース40・公演入場者数629)
2	あなたも岡フィルと共演 しませんか I am a SOLOIST	令和5年5月3日ほか	出演: 山上純司、中井章徳、R4 年度一般オーディションで選出されたリスト11人、オーディションで選出された岡山城東高校出身者7人、岡山城東高校管弦楽部、岡山城東高校合唱部 内容: 各リストが選んだ協奏曲の単楽章ほか	目標値	1,221(入場者1,200、参加者21)
		岡山シンフォニーホール		実績値	1,425(入場者1,200、参加者125)
3	The MOST in JAPAN 2023 岡山公演	令和5年10月6日	出演: The MOST、オーディションで選出されたリスト(ヴァイオリン)3人	目標値	入場者800

		岡山シンフォニーホール	曲目：ホルスト/セントポール組曲、ヴァイヴァルディ /2つのヴァイオリンのための協奏曲ほか	実績値	503(入場者500・参加者数3)
--	--	-------------	--	-----	-------------------

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	小・中学校音楽鑑賞教室	令和5年6月15日	出演:佐々木新平、岡山フィルハーモニック管弦楽団 内容:小六禮次郎/烏城浪漫、シベリウス/フィンランディアほか	目標値	1,200
		岡山シンフォニーホール		実績値	821
2	ファミリーコンサート	令和5年8月20日ほか	出演:石崎真弥奈、岡山県立大学保健福祉学科4年生ほか 内容:ケリーケ/「ハール・キェット」より「朝」、ビゼー/「カルメン」より「闘牛士」ほか	目標値	600
		勝山文化ホールほか		実績値	867
3	レインボーコンサート	令和5年5月7日ほか	出演:岡フィル弦楽四重奏、脇本恵子、打楽器アンサンブルほか 内容:福祉施設等での出張コンサート、「星の王子さま」絵本朗読コンサートほか	目標値	600
		西川アイブラスほか		実績値	750
4	岡山大学Jホールレインボーコンサート	令和5年9月29日ほか	令和5年4月~8月 ※中止 出演:Alto de Campagne、Jアンサンブル、Bella Luceほか 内容:ヴァイオラカルテット、アンバサダーコンサート、星とクリスマス、ピアノデュオほか	目標値	840
		岡山大学Jホール		実績値	379※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価													
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>	<p>岡山シンフォニーホールは次の項目を社会的役割として掲げ、ホール内外で活動を展開した。</p> <p>(1) <u>中四国エリアにおけるアコースティック音楽公演の中核として西日本地域の人々に高質な音楽を提供する。</u></p> <p>(2) <u>中四国唯一のホール付きオーケストラの特性を活かし、オーケストラによる舞台芸術の創造活動の拠点</u>を担う。</p> <p>(3) <u>未来を担う子どもたちをはじめ、多様な対象者に向けて文化芸術に触れる機会をつくり、まちづくり・観光・国際交流等の施策と連携して地域社会の活性化に貢献する。</u></p> <p>(公演)岡山フィルは就任から2年目の秋山和慶ミュージックアドバイザーのもと、質の高い年6回の定期・特別演奏会を実施した。「ニューイヤークンサート(公演)」は名誉指揮者シェンベルグ氏によるプロウラムを行った。ハーピストのマルギット・アナ・シュース氏との公演はコロナ禍にて2020年度から3年延期され、その間にシェンベルグ氏の首席指揮者任期が終了したため本公演は岡山市民にとって待望の公演であった。「第九演奏会(公演)」では、人数制限を解除し公募による合唱団員111名がマスクを外して「歓喜の歌」を歌い上げた。「合唱の美しさに感動」(観客)、「悲しい時代を経て合唱ができるようになり大感動」(出演者)などの声が聞かれた。「プレミアムコンサート(公演)」では、シェンベルグ氏とアナ・シュース氏のデュオコンサートと、小林愛実氏のピアノリサイタルを開催した。「スーパースターの演奏を岡山で聞けて本当に幸せ」「子どもと一緒に一流の演奏を聴けた」などの感想が聞かれた。</p> <p>(人材)「ミュージックワークショップ(人材)」では、基礎力を伴う人材養成のため、国内外で活躍する講師陣を専門別に招聘。年度末の公演をこれまでの集大成として実施した。若いアーティストの育成事業「I am a SOLOIST(人材)」「The MOST in JAPAN 2023」(人材)では、オーディションで選抜された小学生～大学生のリストがプロウラとの共演を果たした。</p> <p>(普及)子どもたちの心豊かな教育に貢献する「小・中学校音楽鑑賞教室」「ファミリーコンサート」(普及)では、オーケストラを初めて体験する子どもの割合が58%、50.7%と半数以上であった。実演芸術に触れる機会の少ない人々に向けた社会包摂事業「レインボーコンサート」(普及)では、長島愛生園等5カ所の病院・福祉施設・特別支援学校へ出向き合計405名の観衆に音楽を届けた。「岡山大学Jホールレインボーコンサート(普及)」も9月から開催が許され6公演を実施。医療従事者や通院患者など来場者から「心がすっきりした」「元気がももえた」などの声をアンケートにてお寄せいただいた。</p>												
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>	<p>【文化的意義】助成事業の実施により、実演芸術に対する住民の興味関心の裾野を広げ、文化芸術への親しみが高まることで岡フィルを始めとした岡山における文化芸術活動の水準向上につながっていると考えられる。地域への普及度を観客アンケート「身近な人にも公演を勧めたいと思うか」から算出すると、指標を取り入れた2019年度より継続して90%以上を維持している(表1)。</p> <p style="text-align: center;">表1</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普及度(%)</td> <td>92.7%</td> <td>90.4%</td> <td>90.0%</td> <td>90.0%</td> <td>90.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【社会的意義】助成事業を通して子どもたちの豊かな情操を育み、家族間コミュニケーションの醸成、日常的に触れる機会の少ない人々に向けて実演芸術に親しむことのできる社会包摂の実施に力を入れた。市内の小中学校8校が参加した「小・中学校音楽鑑賞教室(普及)」では、「大きな音が苦手な児童が最後の曲まで楽しんで聞けた」との教員の声があった。児童・生徒へのアンケートでは、参加者のうち58%(前年対比2%増)が「オーケストラの音色を初めて聴いた」と回答。鑑賞後の心の動きについても「うっとりした」(49%)、「心温まった」(47%)、「ドキドキした」(38%)など、子供たちの多くが心のポジティブな変化を自覚し、その行動にも変化が表れた。「第九演奏会(公演)」では公募の合唱団111名が約4か月間の練習を経て出演し、「ミュージックワークショップ(人材)」では、40名の受講生が毎週のレッスンを経て公演を実施した。参加者は10代～70代であり、日常生活圏が異なる人との間にコミュニケーションが生まれ、地域交流の一助となっている。</p> <p>【経済的意義】演奏会への観客動員数は回復傾向にあり、プレミアムコンサート「小林愛実ピアノリサイタル」は目標値800名に対して1300名、「シンフォニーは友達!」は目標値1000名に対し1239名の来場であった。一方、岡フィルの定期演奏会は上限がおおよそ1200人でとどまっており、コロナ禍以前の数字までの回復には至っていないが、貸館面では海外竹や有名アーティストの公演が再開し、多くの観客動員がなされ、人々が文化芸術に触れる機会を求めて動き始める契機に寄与している面からは、経済活性化につながっている。</p>	年度	2019	2020	2021	2022	2023	普及度(%)	92.7%	90.4%	90.0%	90.0%	90.0%
年度	2019	2020	2021	2022	2023								
普及度(%)	92.7%	90.4%	90.0%	90.0%	90.0%								

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

目標を次のように設定し、事業を実施した。目標値と達成値を併記する。※ ■ は達成項目

表2 公演事業

No.	【公演事業】目標の内容	目標値	達成値			
			2023年	2022年	2021年	2020年
1	観客の公演満足度向上を目指す	93.5%	90.9%	88.5%	88.1%	86%
2	子ども(10代以下)の観客割合を増加させる					
	観客割合(鑑賞型:定期・第九・ニューイヤー)	8%	8.6%	7%	6%	4%
	観客数(参加型:ソフオーは友達)	1000人	691人	918人	1088人	(中止)
3	市外からの観客割合を増加させる	38%	38%	36.4%	33%	36.1%
4	社会包摂の取組での招待者数を増加させる	200人	99人	120人	105人	38人
5	岡山に愛着心・誇りを持てる割合 普及度(身近な人に公演をすすめたいか)	95%	90%	90.5%	90%	90.4%
6	感染症予防ガイドンスに沿って運営する	95%	90%	82%	86%	—

表3 人材養成事業

No.	【人材養成】目標の内容	目標値	達成値			
			2023年	2022年	2021年	2020年
1	地域の芸術文化を担うアーティストの育成を図る (受講生の個人目標の達成度)	70%	71%	59.1%	66.1%	65.4%
	(指導者から見た課題への取り組み達成度)	80%	76%	75%	91.6%	91.7%
2	舞台活動に挑戦し、表現する機会を提供する (ミュージカルワークショップ 公演出演者数累計)	285人	297人	257人	221人	186人
	(SOLOIST 合格者累計)	217人	214人	207人	—	196人
	(MOST 合格者累計・共演者累計)	26人	26人	23人	6人	3人
3	With コロナ時代にも活動を止めない(ワークショップ 中止数)	0%	0%	0件	—	—

表4

No.	【普及啓発】目標の内容	目標値	達成値(校)			
			2023年	2022年	2021年	2020年
1	未就学児、青少年に本物の音楽体験の機会を (「小中学校音楽鑑賞教室」参加率(累計校))	48.9%(70)	48.2%(69)	47.6%(68)	45.4%(65)	44.8%(64)
	(初めての参加者割合)	56%	58%	55%	52%	55.2%
2	子どもたちの変化(小中鑑賞教室教員アンケート)	40%	51%	49%	37%	54%
	気持ちに変化(小中鑑賞教室児童アンケート)	63%	64%	91%	90.5%	86.9%
3	出張公演(病院・福祉施設・支援学校等での公演)公演箇所及び参加者累計	92か所 (8,600人)	91か所 (8,696人)	86か所 (8,291人)	82か所 (8,098人)	83か所 (7,767人)
4	関連の公演を鑑賞したいか			56%	—	—

目標に対し達成できた項目は【公演事業】②③、【人材養成】①②、【普及啓発】①②であった。

【公演事業】②観客割合からは、毎年少しずつ若年層の観客割合が増加していることがわかる。市外からの観客割合も同様であり、徐々にコロナ禍前の割合に戻りつつあると推測される。【人材養成】①「個人目標の達成度」が目標値を超えている点からは、事業内容が自己成長を自覚できる適切な内容となっていることが推し量られる。②「ミュージカル出演者累計」「MOST 合格共演者累計」は、計画通りまたはそれ以上に参加者を募ることができており、地域における文化を創造する中核施設としての役割が果たせていると考えられる。【普及啓発】①「初めての割合」が目標値を超えている点は、低学年からの参加が可能な「クラム」とできているためといえよう。②「子どもたちの変化」「気持ちの変化」においては、オーケストラ鑑賞がもたらす効果が十分に発揮されており、鑑賞者がリラックスして参加できる環境を設けることができているためと判断できる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

今年度予定した事業は概ね当初の計画通り進めることができた。

ただし、「レインボーコンサート(出張公演)(普及)」は福祉施設や病院等、開催場所との協議に時間を要したため、スムーズに計画を進めることが難しかった。また、開催場所が大学病院内に位置する[岡山大学 J ホールレインボーコンサート(普及)]については、会場の使用制限が大変厳しく、なかなか使用許可が下りず中止せざるを得ない状況だったが、大学側と協議を重ね、計画を見直して、内容については「吹く楽器、歌もの」以外、入場者についてもコロナ禍同様の制限を受けながらもなんとか9月から再開の運びとなった。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

開催が実現した事業について、適切な積算で且つ計画通りに進行したといえる。

【公演事業】要望時の事業費に対して、実施後の事業費の変更率は全体で-7.03%であり、それぞれ適切に積算し、事業費を効率的に削減しながら進行することができた。

【人材養成事業】要望時の事業費に対し、決算時の事業費は88.15%であり、事業費の効率的な削減を図りながらの実施となった。「人材2: I am a SOLOIST」では、事業費が要望時の106.58%と超過しているが、これは、オーディションにより選出したリストの演奏曲目に対応するための楽譜以外の料や著作権使用料を当初の見込みより多く必要としたためである。しかし、今回リストに挑戦した学生たちにとって、“プロオーケストラと共演する”という機会は、今後の演奏活動における糧となる経験であり、彼らが課題として取り組んでいる希望曲目での演奏を実現できたことにより、出演者の満足度は100%と高い事業効果を得ることにつながった。

【普及啓発事業】収入を見込まない事業がほとんどであるため、常に事業費を見直し、効率的な削減を図りながら実施したことにより、全体では要望時の事業費に対して決算時のそれは圧縮され、要望比の67.73%となった。特に、要望時と決算時に乖離が生じた大きな要因は病院内施設である「普及4:岡山大学 J ホールレインボーコンサート」が施設都合により開催できない期間があったためである。該当施設は大学病院内の立地であるため、新型コロナウイルスが5類に移行したのちも、すぐさま施設の利用が許可されるものではなく、利用許可が下りたのが9月以降であった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

フォースティック音楽の演奏に適した岡山シンフォニーホールは、県内唯一のオーケストラである岡フィルを有している。この点が当財団の大きな特徴といえる。2023年度は、これに加え演劇・パフォーマンスを展開する芸術創造劇場ハルノが開館し、財団は2館総合管理をすることとなった。この2つの施設と座付きオーケストラという資源を最大限に活かし、当館のミッションを遂行するため、それぞれの事業の目的に沿って、対象者や事業効果が上がるアプローチの仕方、企画内容を検討し、事業を組み立てた。

コロナ禍を乗り越え、制限がない中での事業実施が可能になる中、合唱の盛り上がりは顕著であり、岡山シンフォニーホールにて開催した「第九演奏会」では従来の100名を超える出演者による大迫力の合唱が復活した。また、世界で活躍する演奏家を招聘する目的で開催したプレミアムコンサート「小林愛実ピアノリサイタル」では1300人が来場し、88.5%が「満足」「大変満足」と回答した。感想では「子どもと一緒に一流の演奏を聴けた」など親子での来館を伝えるものもあり、20歳未満の来館者割合が9.6%と通常より多かった。この点から、本公演が本物の音楽を岡山の子どもたちに届けるという狙いが達成された一例であったと判断できる。2か年に渡りリジナル作品に取り組むこととしている「ミュージックワークショップ（人材）」では、芸術創造劇場ハルノでの公演を行った。2024年度からは新体制での開催を予定していることもあり、これまでの集大成となる舞台となった。

【公演事業】指揮者・秋山和慶氏を岡フィルのミュージックアクトバナーに迎えてから2年目となる本年度は、岡フィルにとってはオーケストラとしての活発な演奏活動を再開できた1年であった。演奏会時アンケートの「満足度」では、「大満足・満足」91.4%であり、プレミアムコンサートを加えた90.9%の数値は、前年度の88.5%に比べ、2.4%増加している。「公演を他の人にすすめたいか」にて測る普及度は、前年度に続き90%だが、「市外からの観客割合の増加」では39%であり前年度より3%増加している。これは、芸術創造劇場ハルノの柿落とし公演「ペラ『メイア』」への参加を始めメイアへの露出が増えた点もあるが、何よりは会場で鑑賞して下さったお客様に「また聴きたい」と思っただけだことが数値に表れているといえよう。出演者人数の制限を解除した「第九演奏会」では、約100名の市民合唱団が熱唱した。マスクを外しての歌唱が実現でき、「岡フィルの演奏と合唱のハーモニーが溶け合っていてすばらしかった」などの感想が聞かれた。本事業を通して、岡山市民の生活に活力をもたらす一要因として公演事業が機能したと考えている。

【人材養成事業】2年をかけて創作作品に取り組む「ミュージックワークショップ」では、芸術創造劇場ハルノでの本番公開を目指し40人の受講生が本事業に挑んだ。受講生本人による目標達成度は71%（達成率101%）、講師からの成長度は76%（達成率95%）であるなど、受講生も講師も本事業を通じて成長を実感できた。アンケートでは「技術や能力が高まった」「周囲への気配りができるようになった」などの感想が見られ、本事業での経験が受講生たちの視野を広げたといえる。この経験を試金石に、受講生がそれぞれの舞台で活躍することを期待する。「I am a SOLOIST」は、昨年台風で中止となった公演の再演とともに今年度は岡山城東高校とのコラボレーションとして、学校内オーディションを行いリストを選出した。アンケートにおける観客満足度は93.9%、出演者の本番演奏後の満足度は100%であり、「今まで自分の演奏に自信がなかったが、もっと楽に楽しめば、素敵な音楽を作る事が出来るんだと感じた」などのアンケートが見られ、本事業が観客にも出演した学生たちにも音楽の楽しさに立ち返る契機となったことがうかがえる。

【普及啓発事業】岡山市内の小・中学生を対象とした「小・中学校音楽鑑賞教室」では、オーケストラを初めて体験した子どもの割合が58%であった。オーケストラを聴いたことによる心の変化では「うっとりした」49%、「心が温まった」47%、「ドキドキした」38%などがあり、子どもたちが心地よく音楽に接することができたようである。演奏後の子ども達の心の変化については、「元気が出た」55%、「おだやかな気持ちになった」49%、「音楽や楽器をやりたくなった」37%などの自覚できる変化が見られた。「ファミリーコンサート」勝山公演では50.7%が「子どもと初めて参加する」と回答した。また総社公演では85.3%が未就学児童であった。「レインボーコンサート～記念日コンサート」では、「誰もが気軽に音楽を楽しめる」催しを目指し、『星の王子様』の読み聞かせと演奏を合わせたコンサートに挑戦した。「観客も参加できるプログラムがあってよかった」などの感想が聞かれた。大学病院内にあるホールで演奏を行う岡山大学Jホールレインボーコンサートは、9月からの再始動となったが、「病院の生活（中略）気分的にも落ち込んでいましたが、癒された」などの感想を得られ、「心豊かな生活の実現」を目指す活動の必要性を再確認することとなった。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

世界的パンデミックを引き起こした新型コロナウイルスが5類に認定された5月以降、コンサートホールを訪れる人々からは、徐々に危機感や閉塞感が薄れ催し物が増えるなか、当館でもビジョンに沿った活発な事業展開を図ることで、地域の文化芸術を広く振興し、発展させることに貢献した。

「**定期演奏会(公演)**」アンケートにおいて「クラシックに興味のない子どもも一緒に楽しめた」「CDやYoutubeなどで聴くものとはまったく別物でした」との回答があり、本事業が生演奏のオーケストラを親子で体験可能な演奏会として徐々に認識されつつあることが伺える。年間通じて定期演奏会の満足度は91%と高く観客動員数も前年に対し600人増加した。就学児童等の鑑賞割合も8.25%と前年対比0.5%増加している。来館理由に「学校に岡フィルがきたから」とあり、就学児童の来場率増加には地道な県内での活動が効果を表していると言えよう。

「クラシック音楽と祭り」をテーマに開催したホールフェスティバル「**ソフオーは友達(公演)**」は、「夏祭り」をテーマにオーケストラコンサートに加え、和楽器・創作ダンス・美術の要素を取り入れて開催した。各ワークショップに和の要素を取り入れており、コンサートでは日本の祭りの音楽を取り上げ、ステージ装飾には地元の作家による伝統的な七夕飾りを採用した。参加数は1239人であり、そのうち子どもは690人(55.7%)であった。WSは例年より枠を狭めたため参加者数は減少したが、その分弦楽器体験・和楽器体験の希望者は増加しており「楽器に触ってみたい」との興味を引き出すきっかけを本事業が十分作れていることがわかる。アンケート結果では満足度79%であり、「楽器にも触れられて楽しそうだった」「ソーラン節をオーケストラで聴けて興奮していた」などの感想が見られた。「会話が増えた」「話が弾んだ」などの反応も多く寄せられており、本事業が文化芸術の発展に貢献するとともに、鑑賞者の家庭生活にも潤いを提供していることが推し量られる。

合唱の参加者数制限を解除して臨んだ「**第九演奏会(公演)**」では、110人(前年比+55名)の市民合唱団がマスクを外して熱唱した。入場者数は1,200人(+9%)、来場者アンケートの満足度は89.3%であった。アンケートには「4年ぶり。堪能できた」「市民の合唱もすばらしかった」「もっと多くの人に聴いてもらいたい」「他の人にも喜んでほしい」などの感想が寄せられた。初めて鑑賞した人の割合が30.7%であり定期演奏会の平均値(24.6%)より高い。「地元での第九の復活」というニュースがクラシックに親しみのない市民にも届き、来場のきっかけとなったことは想像に難くない。

若い音楽家育成のための事業として開催している「**I am a SOLOIST(人材)**」においては、岡山で音楽科を持つ県立岡山城東高校と連携を図った。第18回公演では、岡山城東高校在学中および卒業生によるリストを選出しオーケストラと共演を果たした。加えて岡山城東高校管弦楽部(42人)、合唱部(65人)との共演も実現し、地元岡山の若い演奏家たちのレベルと技術力を岡山市民・県民に伝える機会にもなった。動員数:700人、観客満足度:93.9%、出演者の本番演奏後の満足度は全員が「満足した」と答えた。観客も「高校生が立派な大人に見えた。才能ある人が伸びるチャンスがあって良かった。」などの感想がアンケートに寄せられた。

小学生から高校生までの演奏家3名をリストに迎える「**The MOST in JAPAN 2023 岡山公演(人材)**」では、観客数500人を動員した。観客アンケートでの満足度は93.4%(前年比+2.9%)であり、20歳以下の観客動員数13%(+6.6%)、初めての来館割合は58.7%(+50.3%)という結果であった。昨年度より明らかに若年層の観客割合と初めての来館割合が増加している点は、出演者のリスト3名への応援のほか、若手が活躍する本事業を応援しようという岡山市民の気持ちが数字となって表れていると考えられる。出演者アンケートでは、本公演を通して「曲が作られた時代をより意識するようになった」「色々な人との音を聴き合えるようになった」との感想が見られ、事業が出演者には自己研鑽に繋がる機会に、鑑賞者には音楽との出会いの場になったことが伺える。

「**岡山市小中音楽鑑賞教室(普及)**」では参加校数8校(うち初参加1校)であった。教員アンケートでは鑑賞後の子どもたちに「期待した効果があった」と92%が回答している。「思いの表出が少ない児童が、次の日開口一番『楽しかった。』と自分から発していた」など顕著な反応が見られた報告があった。また、病院内施設Jホールでは使用が9月から可能になり、岡山フィルの弦楽四重奏や岡山大学学生たちによる演奏会を開催した(「**岡山大学Jホールインホーコンサート(普及)**」)。満足度は平均90%と高く、感想では「気持ちが元気になりました」など、本事業が「心に潤いと安らぎをもたらし、心豊かな生活の実現につながる」生活の一助となったと考えられる。

今年度の事業はいずれもが観客からの高い満足度を得ている。演奏者自身においては、本年度事業を通じて自己研鑽を積むための手がかりを得ており、観客は演奏者の高い技術と強い精神力で表現された至高の芸術を堪能し演奏者の未来に期待を寄せている。芸術の高みを実演者と観客が互いに啓発し合うこの関係性は本年度事業を介して実現したものであることから、本年度事業は岡山の地域文化の発展に十分に機能し存在感を発揮しているといえる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

公益財団法人岡山文化芸術創造は、2023年9月から、新たに開館した芸術創造劇場ハルノとアコースティック演奏に特化した音楽ホールである岡山シンフォニーホール（当館）の2館を管理する体制となった。岡山シンフォニーホールは座付きオーケストラである岡フィルを有しており、これをメインコンテンツとして周辺地域に音楽芸術の普及を図っている。

芸術創造劇場ハルノの開館により、地域に2つの文化振興の拠点を持つ財団となり、それぞれの資源や専門スタッフによるノウハウの集積を得て、今後、相乗効果による更なる事業の発展が期待できる。

【事業運営】財団内システムを活用し、芸術創造劇場ハルノと岡山シンフォニーホール間の情報を共有し、2館管理の強みを活かした運営を行っている。職員からの企画アイデアや業務改善提案、地域ニーズの拾い上げは前年度から継続し、月次報告書と面談を通じて行っている。アートマネジメント担当のみならず、舞台職員や施設管理、総務系の職員など、全員が問題点と目標を共有し積極的に事業に関わっており、それぞれの立場や視点からの気づきやアイデアを取り入れることで事業運営の改善に活かしている。

【経営戦略】事業価値や地域への貢献度を高めることにより、入場者数の増加や寄付金の獲得に取り組んでいる。本格的に移働を開始した芸術創造劇場ハルノと岡山シンフォニーホールの特色の違いを活かし、それぞれのホールに適した活動を地域の市民および企業にPRすることで、それぞれの館のファン獲得に励んでいる。岡フィルにおいては、寄付金（賛助会費）は現在年間約1,800万円であるが、地域にオーケストラを有することの意義を伝え、理解を深めることに尽力している。徹底した費用対効果を念頭に置いた予算管理を継続しており、最適な事業費で大きな事業効果が生み出せるよう分析と改善に取り組んでいる。

【人材戦略】専門職（アートマネジメント、舞台技術、施設管理等）を適切に配置し、事業を通じた人材養成（OJT）の他、各種研修への参加、目標管理制度の導入による職員育成の促進に取り組んでいる。学生のインターシップも積極的に受け入れており（2023年度：4校、総勢81名）、劇場・音楽ホールで働くことへの興味を実体験を通じて引き出し、次世代の人材育成に取り組んでいる。（インターシップ経験者の職員採用 R6年度1名、R5年度2名）

【ネットワーク構築】事業を展開する上で、他館や教育機関（小中高等学校、大学、市・県教育委員会）、他の文化施設、病院や福祉施設などとの連携強化を図っており、文化芸術を通して共に地域課題に取り組むことのできる体制を構築している。

上記をふまえ、当館におけるPDCAを次のように明らかにする。

【PLAN】劇場法や取り組みに関する指針、当館のミッションを再確認しつつ、前回の改善点を踏まえた事業立案を行う。企画にあたっては、アートマネジメントを担当する事業系の職員を中心に、会議にて活発な意見出しを行い検討を進める。情報の共有には財団内システムを活用しており、どこにいてもスムーズに情報を獲得できる仕組みを構築している。

【DO】事業実施に向けて、チケット販売状況や予算執行状況を事業担当・経理担当を含む全職員で共有し、広報戦略にも反映させながら、事業効果を最大限引き出せるよう努める。事業活動の実施にあたっては、事業担当職員を中心に、ホール内全職員が現場にてお客様対応に当たる。観客・参加者と直接触れ合うことで、事業の意義を確認するとともに、それぞれの立場における気づきを得る。お客様対応の担当部署は定期的に変更しており、より多くの業務内容を経験することで、全体が一つのチームとなって動くことができるよう図っている。

【CHECK】観客・参加者アンケートを分析し、結果をホール全職員に回覧している。毎月の会議（事業部・オーケストラ部会）にて振り返り、反省点や改善点の洗い出しを行う。観客動員数や鑑賞者アンケートを参考に事業企画を練り直す等、月報（全職員）から得た事業改善提案や、それぞれの視点・立場での気づきや意見を共有する。

【ACTION】観客・参加者アンケートや職員からの提案をもとに、地域ニーズを洗い直し、次の事業計画に活かす。

当館ではこれらのPDCAをふまえ、職場内での定例会議にて議題に掲げ、積極的な意見交換を行っている。改善・挑戦に関する案については速やかに実施したのち、再び検証を行うなど迅速な対応を図っている。

当財団における事業を通じての組織活動は、芸術創造劇場ハルノの開館を経て、2館の特性を活かすことのできる役割分担を行うことで、相乗効果を生み出そうとしている。岡山から中四国エリア全体を牽引する財団としての活動を目指し、今後も組織運営を行って参りたい。